

【目的】心臓カテーテル（以下心カテ）後の止血デバイス TR バンド[®]（以下バンド）の使用による疼痛や出血の合併症は多い。当院での先行研究より減圧プロトコル（以下減圧法）を見直し疼痛は軽減した。しかし、出血は軽減せず特に圧迫解除時に多く見られた。そこで、本研究では出血時期に焦点を当て疼痛の増強がなく圧迫解除時の出血が減少する減圧法の検討をした。

【方法】対象：H27年3月～7月に橈骨動脈アプローチにより心カテを施行する患者で同意を得られた184名。介入方法：対象を無作為に2群に分け、従来減圧法（帰室15分後に帰室時血圧を目安に減圧し4時間後に圧迫解除）で介入した対象をA群、新減圧法（従来減圧法4時間後にカフ圧を0にし、1時間後に圧迫解除）をB群とした。データ収集：エントリー用紙を作成しデータを取得した。出血は ϕ 5mm以上とし、疼痛評価はフェイススケールを用いて調査した。出血・疼痛の評価時間は心カテ帰室時、減圧後～1時間、1時間後～5時間、圧迫解除時、圧迫解除後～30分とした。分析方法：Fisherの正確確率検定を使用した。

【結果】対象はA群94名（51%）B群90名（49%）。穿刺部出血はA群3名（3.1%）、B群2名（2.2%）であり有為差はみられなかった（ $p=0.68$ ）。出血のタイミングは、A群で圧迫解除時に認めた（3名/3名）が、B群では減圧後～1時間であった。バンド装着中の疼痛は、A群7名（7.5%）、B群3名（3.3%）であり有為差はみられず（ $p=0.23$ ）、1時間圧迫継続による疼痛の増強も認めなかった。

【結論】新減圧法は疼痛の増強なく圧迫解除時の出血を減らす可能性がある。